

## 鉄鋼技術情報センターだより

センター新着 PROCEEDINGS を紹介致します。下記資料の照会先：日本鉄鋼協会鉄鋼技術情報センター  
電話 03-241-1228

受入No.	PROCEEDINGS 名	開催地	開催月日	SPONSOR 名
904	MATHEMATICAL MODELLING OF MATERIALS PROCESSING OPERATIONS	PALM SPRING	87.11.29	TMS OF AIME
905	1ST INT'L COKEMAKING CONGRESS	ESSEN	87.09.13	VDEH
906	THERMOPHYSICAL PROPERTIES 8	ASO	87.07.22	JAPAN SOC. OF THERMOPHYSICAL PROPERTIES
907	INT'L CONF. ON APPLICATIONS OF ELECTRON & LASER BEAM WELDING	HARTFORD	87.09.16	AWS
908	HIGH TEMPERATURE ALLOYS THEIR EXPLOITABLE POTENTIAL	PETTEN	85.10.15	EC
909	REPORT OF PROC. 21	WASHINGTON	87.10.04	IISI
910	29TH MECHANICAL WORKING & STEEL CONF.	TORONTO	87.10.21	ISS OF AIME
911	4TH INT'L CONF. CONTINUOUS CASTING PREP.	BRUSSELS	88.05.17	CRM
912	45TH ELECTRIC FURNACE CONF.	CHICAGO	87.12.08	ISS OF AIME
913	INT'L CONF. ON PHYSICAL METALLURGY OF THERMOMECHANICAL PROCESSING OF STEELS AND OTHER METALS	TOKYO	88.06.06	ISIJ

### 書 評

#### Steelmaking Data Sourcebook

The Japan Society for the Promotion of Science, The 19th Committee on Steelmaking 編

1968年に日本学術振興会製鋼第19委員会は「製鋼反応の推奨平衡値」を出版し、斯界の技術者、研究者にとつてなくてはならぬ書物として重宝がられてきた。その後、内容がやや古くなった面もあつたようで絶版となつたが、再版を望む声が多数あつた。この要望に応じて同委員会は、50周年記念事業の一つとして「製鋼反応の推奨平衡値(改定増補)」を1984年に出版した。

Part 1では、製鋼反応に関係のある36種類の反応の平衡定数を温度の関数として示しており、Part 2では溶鉄中の合金元素あるいは不純物元素の活量係数ならびに相互作用助係数を取り上げている。本書は、その分野の専門家グループが約6年かけて検討し完成したもの

で、単に推奨値を示しているのではなく、従来の測定値を紹介し、それらの中からもなぜ推奨されたのかコメントが付されている。

1968年版と比較すると、脱酸平衡として最も身近な反応である $Al_2O_3$ の生成反応などいくつかの反応に変更が見られ、また、従来取り上げていなかった硫化物、窒化物、炭化物なども取り上げられている。また、Part 2の内容も1968年版には無かつたものである。本書は今後、1968年版以上に技術者、研究者の必携の書となろう。

わが国では従来、データベースあるいはデータブック類をとかく海外で編集出版されたものに頼りがちであり、これが情報摩擦になりかけているのが現状である。このような時期に、国際的に利用のできるデータ集が出版されたことは喜ばしいことである。

なお、本書の日本語版は限定出版で、すでに在庫はないとのことである。(雀部 実)

A5判 325ページ 定価26200円

1988年 Gordon and Breach Science Publishers 発行